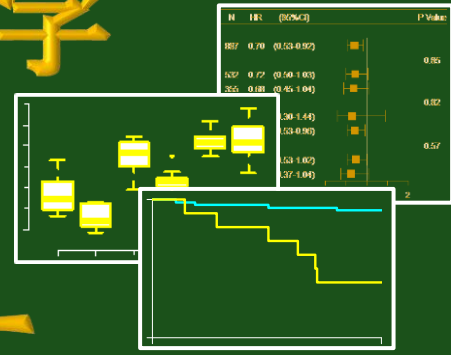


京都府立医科大学 2017年度 生物統計セミナー

主催：生物統計学教室

共催：研究開発・質管理向上統合センター



7/18

臨床試験デザイン

17:30~19:00 南臨床講義棟

臨床試験はデザイン・計画の段階から始まり、試験実施・データ管理・モニタリングを経て、データ解析・報告書作成に至る。この各ステップが統計的方法を必要としている。再現性によって結果を保証することが可能な基礎実験と異なり、同じデザインで繰り返すことが困難な臨床試験においては、デザインと手続きの妥当性から結果を保証するしかない。本講義では、ランダム化対照試験の標準的方法、および探索的臨床試験のデザインとして有用と思われるベイズ流の方法について解説する。

※ 本講義は大学院統合医科学専攻（共通領域）【生物統計学概論】と合同実施します。

11/6

生存時間解析

17:30~19:00 北臨床講義棟

生存時間データの特徴は、打ち切りデータが存在することである。それにより、生存時間データに特化した統計解析手法が必要となる。標準的な手法は、生存曲線の推定にはカプラン・マイヤー法、生存曲線の比較にはログランク検定、ハザード比の推定にはCox回帰分析である。本講義では、11/30開催「予後因子解析」の前提知識を得ることを目的として、これらの手法を解説する。

11/27

(未定)

17:00~18:30 北臨床講義棟

本学客員教授であり、中央大学理工学部人間総合理工学部教授である大橋靖雄先生による講演です。

※ 本講義は大学院特別講義と合同実施します。

10/3

群間比較

17:30~19:00 北臨床講義棟

治療介入や曝露の有無により分類された集団の特性値を検定を用いて比較する場合、特に特性値が連続量の平均値であるならば、t検定・分散分析(ANOVA)が用いられる。また、介入(曝露)効果の大きさとして、平均の群間差が信頼区間とともに推定される。本講義では、連続量データに対する群間比較のための統計手法を概説する。

10/24

相関のあるデータの解析

17:30~19:00 北臨床講義棟

同一対象者内での治療前後の比較や、左右差の比較、治療後複数回測定したアウトカムに興味がある場合、背景情報等を用いて対象者をマッチしたペアでの比較のように、各アウトカムが独立な集団から得られたと仮定できない場合が医学研究では散見される。このような相関性を無視し、通常のt検定や回帰分析を行っては誤った結論を導く。本講義では、対応のあるt検定(繰り返し測定分散分析)のほか、近年頻用されるようになった混合(変量)効果モデルについて概説する。なお、10/3開催「群間比較」の講義内容を理解していることを前提とした講義を行う。

11/30

予後因子解析

17:00~18:30 北臨床講義棟

予後因子解析は、観察研究や予後調査のデータから重要な情報を得る基本的手法の一つである。しかし、一口に予後因子解析と言っても、その目的は様々であり、目的を整理し、目的に合った統計的手法を用いて妥当な結果導くことはそれほど容易ではない。予後因子解析の意義は、

- 1) 疾患実体を明らかにすること、
- 2) 予防法、治療法開発の手掛りを得ること、
- 3) 試験デザインに利用すること、

である。本講義では、予後因子解析の基礎となる方法(ロジスティック回帰分析、Cox回帰分析)の解説、および事例の紹介を行う。

※ 本講義は大学院統合医科学専攻(共通領域)【統合医科学概論】と合同実施します。

担当講師

7/18	11/6	11/30	手良向聡 教授
10/3	10/24		横田 勲 助教
11/27			大橋 靖雄 客員教授



当教室ホームページからの参加登録にご協力ください
<http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/biostat/>

お問い合わせ先：横田勲(助教) iyokota@koto.kpu-m.ac.jp (内線：5966)